

幼稚園教育の要旨

目白幼稚園
和田 實

近時幼稚園教育に關して、實驗や統計の報告が比較的によく爲されるやうであるが、單に幼稚園教育に關する諸種の經驗を漠然と積み重ねるといふだけでは頗る意義の尠いもので、幼稚園教育の全體に對して貢獻するところも亦頗る貧弱なものであるに止まるのである。

幼稚園教育の要旨といふ根本の問題が十分に考察せられ、理解せられて後、始めて實驗なり統計なりに意味が生じて來る。幼稚園教育の要旨といふやうな問題は根本的なものであるにも係らず、それが根本的であるといふ理由のために當然理解されて居るべきものとして、誰も之に就てあまり深入りをしやうとしない。これがために、百の計畫千の經驗も、實際的效果そのものとはあまり

交渉する所がないと云ふことになるのである。常に新しかるべきこの根本の問題に對しては幼稚園教育者は常に心に向けて居らなければならぬ。私は日本の保育者に對しては特にこの點に關する考察を忽諾に附せられざらんことを望むものである。

すべて幼稚園教育に關する實驗なり報告なりは保育の要旨といふ根から出た枝なり葉なりでなければならぬ。實驗なり報告なりは保育の要旨を常にその根抵に持つて居なければならぬ。實驗は特殊であり、要旨は普遍である、普遍を含んで居る特殊のみが我々に對して暗示的である、單なる特殊は特殊としてより以上の價值を持つことは不可能である。

然らば幼稚園教育の要旨とは如何といふに私の考ふるところに據れば、それは兒童の興味の培養といふことに存するのである。兒童の興味培養といふことが何故幼稚園教育の主眼點となるか。これは幼兒の發達の順序から推して何うしても斯く考ふことが至當でなければならぬのである。私はこの點に關して以下に少しく説明を施したいと思ふのである。

若し我々の神經系統が、フロリダのいふやうに三四才頃までに完成されるものであるとするならば人格の基調が學齡前に略ぼ成就されるものと見ること大した誤のないことが承認せられなければならぬ。

近頃屢々「早教育」といふ言葉を耳にする。天才の爲めに早教育を施すべしといふやうなことが盛んに唱へられるのである。しかし早教育といふことは何も天才者のみを對象とする必要はない、一般兒童を對象とする普通教育も早教育であつてよろし

いのである。否、教育は宜しく學齡前即ち七才以前から行はるべきである。一體今日の如く幼兒が七才になつた時教育年齡に達した如くに考へて、始めてそれでは教育に取掛らうといふやうにしてゐるのからして、甚だ迂遠な話であつて、幼兒教育に對して徹底的な考察を試みる勞を取つたことのないことを示して居るのである。しかし尤もこの事には理由がある、即ち一般の人々は教育といふと、之を主にも智育といふことにのみ解釋し易い傾向を持つて居るのである、斯る人々が學齡前の教育などといふ言葉を聞いた時、直ちに「頭腦のしつかり固つてゐない幼兒に、教育などといつて、いろ／＼なことをつめ込まれては堪らない」といふやうな考へ方をするのは無理のない話である。誠にさうである、私とても智育の學齡以前に行はるべき必要を急進的には認めて居ないのである。智能の教授が學齡以後に於て行はれることに對して私は決して異説を懐くものではないの

である。しかし教育は學齡以前に於て既に始められて居なければならぬといふことを私は主張する、何故ならば私のいふ教育といふ言葉は智育といふ言葉の同義語でないからである。成程、智育といふこともかなり重要な問題である、しかし教育といふ全體から見るとは智育の事は抑、末であることを教育の全圖にまで取りひろげる不自然を敢てしない限りに於て、教育の大體が學齡前に於て行はれるといふことに不都合はないわけである。斯く解釋して來ると特に早教育なる言葉の存することが些か滑稽に感ぜられて來るのである。

却説、本題に戻つて兒童の興味といふことに就て少しく研究して見やう。兒童の興味は活動に伴つて生ずるのである。兒童は活動を欲して居る、即ち常に興味を得んと試みつゝあるのである。兒童の生活は興味を追うて動いて居るのである。故に幼稚園教育者の目標とするところは兒童の興味

といふことでなければならぬ。即ち幼稚園教育者の任務の主なるもの、一つは兒童の興味を誘導することに終始することである。ヘルバルトが教授に際して多方面の興味を喚起する要があると説いて居るのは大いに意味のあることである。斯ういふ風に考へて來ると幼稚園教育の目的は興味にありと言つても太した間違はないことになるのである。幼稚園教育者及び兒童研究者は以上の理由に鑑みて、先づ兒童の興味の發生を研究しなければならぬ、遊戯の研究なども必ずこの兒童の興味といふことに關聯させて行ふのでなければ教育上には價値が尠いものとなるのである。先月の「兒童研究」にも某文學士の遊戯に關する研究が掲載されてゐたけれども、遺憾ながら兒童の興味といふことに關聯を持つた研究ではないやうであつた。兒童の遊戯をいろ／＼集めて來たいだけでは、遊戯そのものゝ研究には資する所があるかも知れぬが、教育的には太した意味を持ち得ないのである。兒

戲を研究し、これを適當に案配して、兒童の興味を益々増盛せしむるといふことになるのである。尤も興味を起させるとは言つても最後の理想的興味を十分に起させるとに於て失敗したならば幼稚園教育は九仞の功を一簣に欠いたと同じ結果に陥るのである。統一、理想の興味が起らなかつたならば兒童は徒らに多くの興味を示唆せられて、移氣な、まとまりのない生活に導かれて了ふであらう。従つてかゝる兒童は集中を行ふことが出来ない、即ち勉強に不適當な兒童となる。幼兒保育の興味説の重要な點が即ち茲に存するのである。理想の興味統一の興味は何うして與へらるゝかといふにこれは主としてお話とか唱歌とかいふやうなものに依つて與へらるゝのである。この點からいふと幼稚園に於けるお話と唱歌とは實に重大な任務を持つものとなるのであつて、これが選擇は實に嚴重に爲されなければならぬのである。お話や唱歌の選擇振り如何が實に幼稚園教育の効果を左右する

といつても間違ひはないことになるのである。

斯くして幼稚園に於て兒童に統一の興味、理想の興味を起させることが出来たならば、即ち平たういへば、大きくなつたら何をしやうといふ問題に對して熱烈な考を兒童に懷かせることが出来たならば、幼稚園教育の任務は全ふせられたものと見てよいのである。

國語の教授などは小學校から始められるやうに考へてゐる人もあるが、國語の文字を覺えることは成程學齡以後が適當であるかも知れないが正しき發音正しき話し方は既に幼稚園時代から注意せられて間違つた音や話し方を初めから覺えさせないやうにするならば、小學校へ入學してから新に國語を覺え直す必要はないことゝなるのである。斯く考へて來ると小學校は初等の學校でなく、中學校であるのである。初等の教育を司るものは幼稚園である。而してこの最初の教育を施すところの幼稚園は兒童の興味を適當に誘導して行くことをその任務として居るのである。(文責在記者)